皆さんの善意に支えられて

南阿蘇村を支えてくれたのは、多くの方の支援でした。避難所生活のあらゆる面をサポートしていただき、復旧に向けて、村内外から多くのボランティアの方が駆け付けてくれました。

◉炊き出し

先ずは何か食べるものを

「先ずは何か食べるものを」と立ち上がったのが避難者でもある新所・立野地区の婦人有志。災害当初、旧立野小家庭科室には調理道具が揃っていなかったため、自分たちで食材や、冷蔵庫、鍋を集め、「おにぎり」や「味噌汁」を避難者に提供された。

衛生・栄養・体調面を考慮した食事提供

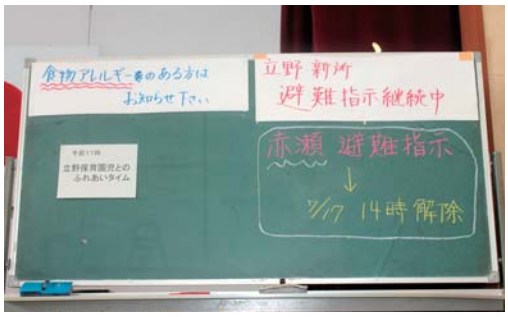
避難所生活の先行きも見通しが立たないため、役場職員により、大人数に対応できる食材や冷蔵庫、鍋など調理できる環境を整えた。村の管理栄養士も調理の負担を軽減するため、「調理しやすい」「食中毒を出さない」など衛生面にも配慮した料理メニューを考案。最多２５０人分の食事を提供した。村内外多くの方から炊き出しの協力をいただき、新所・立野婦人有志の調理負担軽減を図り、当番制で炊き出しをしていただいた。長陽地区の小中学校が休校の際は、給食センターが調理を行った。

多くの調理ボランティアの皆さんによる炊き出し

新上五島町のうどん

本村と姉妹町村の長崎県新上五島町有志の方が支援に駆け付けられ、「うどん」を振る舞われた。「だしが効いて美味しい」と評判で、大人から子どもまでおかわりをした。避難者に笑顔があふれた。

「だし」が効いていて美味しいとよろこばれる避難者の皆さん



避難者へのお知らせを黒板に掲示

【ありがとうございました】

調理ボランティア約100人のご協力で温かみのある食事を提供することができました。

- 新所・立野地区の婦人有志の皆さん
- ㈲くぎのむらの皆さん
- 久木野小学校栄養教諭　宮嵜真理子さん
- 村生活研究グループ連絡協議会の皆さん
- 村地域婦人会の皆さん
- 村食生活改善推進員協議会の皆さん
- 長崎県新上五島町有志の皆さん

◉入浴支援

旧立野小学校避難者の入浴は、村の温泉センター「ウィナス」と「憩いの家」が無料開放。入浴希望者を募り、送迎を行った。

下野公民館の避難者については、火の山温泉「どんどこ湯」から避難所滞在期間中支援いただき、避難者の疲れを癒していただいた。

◉避難所のゴミ

被災地区の立野・新所・赤瀬地区を除く長陽地区の環境保全民間監視員12人（区長）が、ゴミ収集日を決め、軽トラック3台でゴミ収集にあたられた。

避難所のゴミを収集される区長の皆さん

◉立野保育所仮移設

土砂災害の危険性がある「立野保育所」も、旧立野小学校校舎に仮移設。２教室を使用しての保育所運営となった。

２教室を使用して保育所運営

園児たちの笑顔は災害を忘れさせてくれた

◉避難所の生活

避難者の健康状態を把握するため、村の保健師たちが毎日健康チェックを行った。

午前10時からは、少しでも運動不足を解消するために「ラジオ体操」を行い、その後、立野保育所園児たちとの「ふれあいタイム」。教室２階に開設された立野保育所の園児たちが、避難者のもとに訪れステージ発表。避難者の「肩もみ」や、ゲームをして疲れた体を癒してくれた。

⬆毎朝11時からの「ふれあいタイム」。肩もみをする小さな手には大きな真心。ジャンケンや、ゲームもして避難者の顔に笑顔が浮かんだ

毎朝、10時から行うラジオ体操。➡
避難者、役場職員一緒に「ラジオ体操」をして運動不足解消に取り組んだ

◉各地からの救援

村社会福祉協議会が、災害ボランティアセンターを旧立野小学校校長室に設置し、７月17日から運用を始めた。日毎にボランティア登録者数は増える一方、避難指示が解除されないため活動できない状況。

７月22日、ついに立野・新所地区の避難指示が解除された。23日、本格的に復旧活動が始まった。なだれ込んだ土砂をシャベルですくい出し、泥で汚れた家具を拭くなど、太陽が照りつける中、泥まみれになりながら作業をしていただいた。ボランティアには、一日約40人が活動され、県内外から延べ３３５人（７月30日現在）が応援に駆け付けていただいた。

災害ボランティアセンターが開設

炎天下の中、泥まみれで敷地内の泥を運ぶボランティアの皆さん

◉避難所の提供

避難所は、指定された避難所のほか、阿蘇立野病院、久木野温泉「木の香湯」、阿蘇白水温泉「瑠璃」、温泉センター「ウィナス」、「憩いの家」から支援していただいた。